

# 第6次高浜市総合計画 中期基本計画

## 施策課題カルテ

目標

(1) まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます

〔とりまとめG〕 企画部 総合政策グループ

〔担当G〕 企画部 人事グループ

総務部 行政グループ

# I. 目標と目標の達成状況

## 1. 目指す姿と目安となる指標

目標	<b>(1)まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます</b>					
目標達成に向けての考え方	「いつまでも住み続けたい！」と思える高浜市を創っていくために、まちの目指す姿を共有し、市民・地域・行政がそれぞれの力を高め、みんなで連携・協力して、未来を切り開くチカラへとつなげていきます。					
目標が達成された姿	① まちへの愛着や誇りが高まり、まちのことを「自分のこと」として考えています。 ② まちづくりの課題や目標が共有され、一人ひとりが自分にできる行動を起こし、まちづくりの輪が広がっています。 ③ 高浜市で暮らす日常の「心地よさ」を実感する人が増え、まちに笑顔があふれています。 ④ 職員は、市民や地域の想いに寄り添いながら、職員力を磨き、課題の解決に向けて積極的に行動しています。					
指標の状況	みんなで目指すまちづくり指標	現状値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)
	1) いつまでも高浜市に住み続けたいと思っている人の割合	79.4%	83.3%	82.2%		85%
	2) 地域活動に参加したことがある人の割合	56.0%	58.5%	59.2%		65%
	3) 地域活動に参加したことがある職員の割合	63.1%	62.3%	78.0%		80%

## 2. 市民意識調査結果

設問	現状値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)
まちを愛する想いが育まれ、市民みんなが連携・協力して、まちづくりを行っているまちだと思う	66.4%	64.1%	64.4%		

## 3. 「みんなで目指すまちづくり指標」「市民意識調査」結果に対する現状分析(要因・課題等)

◎中期基本計画期間中(H26~H29)の「指標の状況」や「市民意識調査結果」の結果を踏まえ、指標(目標)が達成できた要因・達成できなかった要因といった分析内容を記載する。

※平成29年6月に「施策評価」(内部評価)を行う段階で、記入内容を差し替える。

- 指標1)2)は策定時と比べてそれぞれ3ポイントほど伸びている。いつまでも高浜市に住み続けたいという気持ちは、まちへの愛着・誇りの高まりとともに自然と醸成されていくものと思われるが、「高浜市に愛着や誇りを持っている人」の割合は、策定時と比べて2.1ポイント減少しており、まちへの愛着・誇りを高めるための取組みが必要である。
- 指標1)2)の概要を市民意識調査報告書から見ると、10~30歳代の若い世代の割合が全体に比べて大きく低下している。しかし、10~40歳代で「地域活動に参加したことがある」と回答した割合は、前年に比べて増加しているため、今後も若い世代をターゲットに、高浜市の良さや地域活動の意義・効果等の発信など、まちへの興味・関心・好奇心を高める取組み、地域活動への一歩を踏み出せるようなきっかけを幅広く創出していくことが大切である。将来を見据え、粘り強く地道に取り組んでいく必要がある。
- 指標3)は策定時と比べて約15ポイント伸びている。これは、職員の若年化が進む中、中期基本計画の期間をとおして、若手・中堅職員を対象に「たかはま地域経営実践塾」や「若手職員成長支援研修」を実施し、地域活動参加についての意識改革やノウハウを学ぶ機会を設けた結果であると認識している。今後も目標値の達成に向け、取組みを進化させながら継続していく必要がある。

- ・市民意識調査の結果は、策定時と比べて2.0ポイントの減、前年と比べて0.3ポイントの微増となっている。これまでまちづくりの裾野を広げる取組みを進めてきた結果、地域活動への参加は活発になっているが、住民同士・団体同士の連携・協力にはまだつながっていないと考えられる。男女別の割合に焦点を当てると、前年比で男性が6.1ポイントの増、反対に、男性に比べ趣味・ボランティアサークルなどグループ等に属して活動するケースが多い女性の割合が、4.0ポイントの減とバラツキが見られた。また、年代別で見ると50・60歳代の割合が全体と比べ低くなっており、定年後にまちづくりの担い手として活動していただけるよう、地域デビューのきっかけづくり・後押しできる仕組みづくりが必要である。

#### 4. 「目標」と「みんなで目指すまちづくり指標」の適切性

##### 指標1) いつまでも高浜市に住み続けたいと思っている人の割合

設定根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高浜市に「いつまでも住み続けたい」と思える市民を増やすため、まちへの愛着や誇りを高め、高浜市で暮らす日常の「心地よさ」を実感する取組みを進める。そこで、最終的な目標である「いつまでも高浜市に住み続けたいと思っている人の割合」を指標として設定する。</li> <li>・前期の指標の実績値の推移を踏まえ、トレンドにより、4年後の平成29年度(2017)の目標値を、現状値から約5%上昇の「85%」と設定する。(H22:76.9%⇒H24:79.4%+2.5%)</li> </ul>
指標の見直し	<p>◎中期で掲げたこの指標を、後期においても引き継いでいくか。もしくは変更するか。</p> <p>◎(変更する場合)新たな指標として、どういった指標が考えられるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いつまでも高浜市に住み続けたい」と思う気持ちは、まちへの愛着や高浜市で暮らす日常の心地よさを測る指標として適切であり、定住施策を推し進める上でも貴重な指標となるため、後期においても引き続き指標とする。</li> </ul>
目標値の適切性	<p>◎目標値の設定は適切か。</p> <p>◎(適切でない場合)新たな目標値を設定する。</p> <p>◎(指標を変更する場合)目標値を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H29の目標値である85%に到達していないため、後期(H33)においても目標値を据え置くこととする。</li> </ul>

##### 指標2) 地域活動に参加したことがある人の割合

設定根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来を切り開くチカラを高めるためには、まちへの愛着や誇りを高め、みんなで力を合わせてまちづくりに取り組むことが大切である。そこで、まちのことを「自分のこと」として考え、まちづくりに参加する人を増やす取組みを進める。その成果を測る指標として、「地域活動に参加したことがある人の割合」を設定する。</li> <li>・前期の実績では、平成23年度に9.2%、平成24年度に1.4%の上昇と、2年間で、10.6%の上昇となっている。ただし、指標が55%を超えると伸びが著しく鈍化しており、実績をふまえた直線回帰的な伸びは厳しい。そこで、前期の2年間で達成した約10%の伸びを中期の4年間で達成する目標値とし、平成29年度(2017)の目標値を、現状値から約10%上昇の「65%」と設定する。</li> </ul>
指標の見直し	<p>◎中期で掲げたこの指標を、後期においても引き継いでいくか。もしくは変更するか。</p> <p>◎(変更する場合)新たな指標として、どういった指標が考えられるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりの輪を広げ、まちへの愛着や誇りを高めるため、まちづくりの担い手の育成に向けた取組みを進めている。その成果を測る指標としてふさわしいため、後期においても引き続き指標とする。</li> </ul>
目標値の適切性	<p>◎目標値の設定は適切か。</p> <p>◎(適切でない場合)新たな目標値を設定する。</p> <p>◎(指標を変更する場合)目標値を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H29の目標値である65%には到達していないが、年々目標値に向けて数値が伸びており、後期(H33)においても目標値を据え置くこととする。</li> </ul>

指標3) 地域活動に参加している職員の割合	
設定根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの責務として率先して地域へ飛び出し、市民と協働して地域の課題解決に向けて取り組むという使命感をもった職員が増えていくことを把握するため。</li> <li>目標値については、第6次総合計画の計画終了年である平成33年(2021年)に100%とすることを前提に、直線回帰法によって算出する。 2013年目標値60.0%より <math>(100\% - 60\%) \div 8 \text{年} (2013 \text{年} \rightarrow 2021 \text{年}) = 5\%/\text{年}</math> (2013年→2017年) <math>\times 5\% = 20\%</math></li> </ul>
指標の見直し	<p>◎中期で掲げたこの指標を、後期においても引き継いでいくか。もしくは変更するか。</p> <p>◎(変更する場合)新たな指標として、どういった指標が考えられるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政職員として市民の期待に応えるためには、職員自らが地域活動に参加し、地域の課題を認識することが大切であり、今後も地域活動への参加促進を行う必要があるため、後期においても引き続き指標とする。</li> </ul>
目標値の適切性	<p>◎目標値の設定は適切か。</p> <p>◎(適切でない場合)新たな目標値を設定する。</p> <p>◎(指標を変更する場合)目標値を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての職員が地域活動に参加する必要があるため、後期計画では、目標値を、育児休業者や病気休暇者等を除き、100%とする。</li> </ul>

## Ⅱ. 目標達成のための取り組み

### 1. 「こんなことに取り組みます！」を構成するアクションプラン一覧

こんなことに取り組みます！	アクションプラン事業名	
(1) 市民と行政がお互いにコミュニケーションをとり、市政運営やまちづくりに関する情報発信・情報交換を活発に行います。	H26	【No.1】情報発信パワーアップ事業
	H27	【No.1】情報発信パワーアップ事業
	H28	【No.1】情報発信パワーアップ事業
	H29	【No.1】情報発信パワーアップ事業
(2) 市民・地域・行政がそれぞれの得意分野を活かし、ともにまちづくりに取り組んでいくための環境づくりを進めます。	H26	【No.2】みんなでまちづくり事業 【No.3】まちづくり応援事業
	H27	【No.2】みんなでまちづくり事業 【No.3】まちづくり応援事業
	H28	【No.2】みんなでまちづくり事業 【No.3】まちづくり応援事業
	H29	【No.2】みんなでまちづくり事業 【No.3】まちづくり応援事業
(3) “大家族”のみんなが幸せな生活を送ることができるよう、高浜市で暮らす日常の「心地よさ」を高める取組みを進めます。	H26	【No.4】アシタのたかはま研究事業
	H27	【No.4】アシタのたかはま研究事業
	H28	【No.4】アシタのたかはま研究事業
	H29	【No.4】アシタのたかはま研究事業
(4) 現場を第一に考え、問題意識を持って課題に積極的に取り組むため、職員力を高めま           す。	H26	【No.5】職員カステップアップ推進事業
	H27	【No.5】職員カステップアップ事業
	H28	【No.5】職員カステップアップ事業
	H29	【No.5】職員カステップアップ事業

2. 「こんなことに取り組みます！」の実施内容			
こんなことに取り組みます！	(1) 市民と行政がお互いにコミュニケーションをとり、市政運営やまちづくりに関する情報発信・情報交換を活発に行います。		
アクションプラン事業名	H26～H29 【No.1】 情報発信パワーアップ事業	担当部・グループ	企画部 総合政策グループ
実施内容	何を・どのように・どうした(どうする) ※箇条書きで記載する		いつ(年月)
平成26年度	① 部局ごとの重点事業を公表するパンフレット「〇〇部長の実行宣言」を作成し、各まちづくり協議会で周知するとともに、公共施設に設置した。		H26.7
	② 市公式フェイスブックを立ち上げた。		H26.9
	③ 「自分自身が動くことがしあわせ」をテーマとした別冊「広報たかはま」新春特別号を発行した。		H26.12
平成27年度	① ホームページのトップページリニューアルを行った。		H27.10
	② 市政情報を手軽に入手することができるように、広報 1/1 号より「i 広報紙」の配信を開始した。		H28.1
	③ 市政に対する関心・理解を広める広聴活動として「まちづくりトーク&トーク」を実施し、広報にその模様を掲載した。		H27.12 H28.3
平成28年度	① 広報発行により市政やまちの情報を提供し、各所管と協議しながら重要なお知らせを特集にして紹介した。		H28.4～ H29.3
	② 市政記者への情報提供や、近隣市広報との連携で市外への情報発信を行った。		H28.4～ H29.3
	③ 部局ごとの重点事業を公表するパンフレット「〇〇部長の実行宣言！」を作成、公共施設に設置し、概要を広報(5/15、11/15日号)に掲載した。		H28.4～5、 10～11、 H29.3
	④ ホームページに翻訳機能を追加した。		H28.4
平成29年度 (予定)	① 「〇〇部長の実行宣言！」平成29年度版の作成と公表を行う。		H29.4
	② 有料広告掲載の働きかけを、あらゆる場面で行う。		H30.3
	③ あらゆる機会を捉え、個々との対話的に意見の聞き取りを行い、広報・広聴活動を通じた新たなつながりを総合計画(後期基本計画)策定に活かす。		H30.3
	④ ホームページの運用状況の検証を全庁的に行う。		H30.3
「目標が達成された姿」の実現に向けての成果・課題	<p>◎中期4年間の実績(見込)を踏まえ、「目標が達成された姿」の実現に向けての成果・課題をまとめる。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市公式フェイスブックの立ち上げなど、市民と行政がお互いにコミュニケーションをとり、市政運営やまちづくりに関する情報発信・情報交換を活発に行えるような環境を整えることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民から「さらなる情報発信・PRの強化が必要」との声を多くいただく。今ある情報媒体を有効的に活用していただくだけでなく、新たな媒体や情報発信の仕方を考えていくことが急務である。そして、まちのことを「自分のこと」として考えることができる市民を増やしていく必要がある。</li> </ul>		
特記事項	<p>◎同じ施策内(目標内)で、「こんなことに取り組みます！」の統合が必要など、後期基本計画の素案づくりに向けて、特筆すべき点について記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信に関する取組みは、市民とともにまちづくりを進める上で基本的な事項であり、必要不可欠である。よって、後期においても当該の「こんなことに取り組みます！」は継続して掲げていく。</li> </ul>		

2. 「こんなことに取り組みます！」の実施内容			
こんなことに取り組みます！	(2) 市民・地域・行政がそれぞれの得意分野を活かし、ともにまちづくりに取り組んでいくための環境づくりを進めます。		
アクションプラン事業名	H26～H29 【No.2】 みんなでまちづくり事業 【No.3】 まちづくり応援事業	担当部・グループ	企画部 総合政策グループ
実施内容	何を・どのように・どうした(どうする) ※箇条書きで記載する		いつ(年月)
平成26年度	①まちづくり協議会の要件を明確化するために「高浜市まちづくり協議会条例」を策定した。		H26.4～12
	②市民・地域と市職員のつながりをテーマとした「たかはま大家族フォーラム」を開催した。		H26.11
	③「自治基本条例子ども向け副読本」を活用し、地域との協働により小学6年生を対象に「出前授業」を実施した。		H26.9～ H27.2
平成27年度	①まち協サミットにおいて、交付金制度の見直しを協議した。		H27.6～ H28.3
	②まちづくり協議会特派員が中心となり、地域計画の見直しを支援した。		H27.6～ H28.3
	③自治基本条例検証委員会を開催し、検証報告書を完成させ、市長へ提出した。		H27.5～10
平成28年度	①若手職員成長支援研修において、新人職員を対象に「参画・協働・情報共有のガイドライン」や自治基本条例の概要について説明を行った。		H28.4・8
	②市民活動情報を特にフェイスブックを使って積極的に発信し、まちづくり活動の成果や意義を伝えた。		H28.4～ H29.3
	③市民予算枠事業（地域一括交付型）提案に向けた説明会を、まち協とまち協構成団体を対象に行った。		H28.8
	④まち協特派員制度を、全庁協働体制を推進し、すべての若手職員が地域と関わりを持てる制度とするため、見直しを行った。		H28.10～ H29.3
平成29年度 (予定)	①若手職員成長支援研修において、新人職員を対象に「参画・協働・情報共有のガイドライン」の概要説明を行う。		H29.4
	②市民予算枠事業交付金（地域一括交付型）をスタートさせるにあたり、随時各まち協や構成団体の相談に応じていく。		H29.4
	③まちづくり出前授業を、高浜カリキュラムに連動するよう教育委員会と調整・検討しながら実施する。		H30.3
「目標が達成された姿」の実現に向けての成果・課題	<p>◎中期4年間の実績（見込）を踏まえ、「目標が達成された姿」の実現に向けての成果・課題をまとめる。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりフォーラムやまちづくり出前授業の実施など、まちづくりの裾野を広げるための取り組みを進めてきた結果、地域活動に参加したことがある市民の割合は年々増加している。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若い世代や企業を退職された方などが地域へ飛び出すためのきっかけづくりについては、具体的な手立てが見つからず、実施に至っていない。</li> </ul>		
特記事項	<p>◎同じ施策内（目標内）で、「こんなことに取り組みます！」の統合が必要など、後期基本計画の素案づくりに向けて、特筆すべき点について記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりの裾野を広げることを目的とした当該「こんなことに取り組みます！」は、若い世代を中心に今後も展開していく必要がある。よって、当該の「こんなことに取り組みます！」は継続して掲げていく。</li> </ul>		

2. 「こんなことに取り組みます！」の実施内容			
こんなことに取り組みます！	(3)“大家族”のみんなが幸せな生活を送ることができるよう、高浜市で暮らす日常の「心地よさ」を高める取組みを進めます。		
アクションプラン 事業名	H26～H29 【No.4】 アシタのたかはま研究事業	担当部・グループ	企画部 総合政策グループ
実施内容	何を・どのように・どうした(どうする) ※箇条書きで記載する		いつ(年月)
平成26年度	①自治体内シンクタンク「アシタのたかはま研究所」を設置した。		H26.4
	②20年後の高浜市や行政サービスのあり方などを見据え、各種の政策データの収集・分析、政策課題の洗い出しなどの調査・研究を行った。		H26.4～ H27.3
	③「しあわせづくり計画」を市民とともに策定するための準備を進めた。(例：職員を対象とした政策形成能力・課題解決能力向上のためのワークショップ)		H26.7～ H27.3
平成27年度	①しあわせづくりフォーラムを開催した。		H28.3
	②しあわせづくり計画(本編及び別冊)を策定した。		H28.3
	③高浜市人口ビジョン及び高浜版総合戦略を策定した。		H28.3
平成28年度	①しあわせづくり計画実践プロジェクト(職員版)をスタートし、実践を行った。		H28.5～ H29.3
	②高浜市まちづくり研究センターと連携しざっくばらんなカフェをスタートした。		H28.6
	③人工知能の行政サービスへの活用を検討した。		H28.8
	④総合計画の進行管理に合わせ総合戦略の進行管理を実施した。		H28.6～ H29.3
平成29年度 (予定)	①市民と一緒にしあわせづくり計画を実践していく。		H30.3
	②各種データの収集分析及び将来の行政サービスに寄与するツールの調査研究を行う。		H30.3
	③人口ビジョン・総合戦略の進行管理を行い、後期総合計画との連携を図る。		H30.3
「目標が達成された姿」の実現に向けての成果・課題	<p>◎中期4年間の実績(見込)を踏まえ、「目標が達成された姿」の実現に向けての成果・課題をまとめる。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高浜で暮らす日常の「心地よさ」や幸せを実感できる取組みとして、職員プロジェクトが中心となりしあわせづくり計画の実践を進めることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>しあわせづくり計画の実践について、これまでは職員が主導で進め、市民を十分に巻き込むことができていない。今後は市民から積極的に「こうしたい！ やりたい！」の聲が挙がり、実践していただけるような働きかけが必要である。</li> </ul>		
特記事項	<p>◎同じ施策内(目標内)で、「こんなことに取り組みます！」の統合が必要など、後期基本計画の素案づくりに向けて、特筆すべき点について記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>しあわせづくり計画の実践として、日常の「心地よさ」を高める取組みは、市民とともに考えながら今後もますます展開していく必要がある。よって、当該の「こんなことに取り組みます！」は継続して掲げていく。</li> </ul>		



2. 「こんなことに取り組みます！」の実施内容			
こんなことに取り組みます！	(4)現場を第一に考え、問題意識を持って課題に積極的に取り組むため、職員力を高めま		
アクションプラン 事業名	H26～H29 【No.5】職員カステップアップ事業	担当部・グループ	企画部 人事グループ 総務部 行政グループ
実施内容	何を・どのように・どうした(どうする) ※箇条書きで記載する		いつ(年月)
平成26年度	①民間企業へ職員を派遣し、習得した業務改善手法を全庁展開した。		H26.4～ H27.3
	②内部研修として、中堅・若手を対象とした「たかはま地域経営実践塾」や新人職員を対象とした「若手職員成長支援研修」を実施した。		H26.4～ H27.3
	③外部研修として、「やねだん故郷創生塾」「全国地域リーダー養成塾」「自治大学校」などへ職員を派遣した。		H26.4～ H27.3
平成27年度	①若手職員成長支援研修(やってみよMyプロジェクト)を開催した。		H27.4～ H28.3
	②第3期たかはま地域経営実践塾(塾長:大杉覚氏)を開講した。		H27.5～ H28.3
	③全庁的な2S活動・標準化活動を実施した。		H27.6～ H28.3
平成28年度	①若手職員成長支援研修の開催		H28.4～
	②地域リーダー養成塾への職員派遣		H28.5～
	③「若手・中堅職員による職員のための職員研修」実施に向けての検討		H28.4～
平成29年度 (予定)	①若手職員成長支援研修の実施		H29.5
	②「若手・中堅職員による職員のための職員研修」第二弾企画研修の実施		H29.10
	③時間外勤務縮減に向けたタイムマネジメント研修の実施		H29.11
	④組織体制改革の実現に向け、職員アンケートの実施や改革案の作成等の準備と組織の要である主査職の育成		H30.3
	⑤女性職員の管理職養成研修会への派遣や働きやすい職場環境づくり		H30.3
「目標が達成された姿」の実現に向けての成果・課題	<p>◎中期4年間の実績(見込)を踏まえ、「目標が達成された姿」の実現に向けての成果・課題をまとめる。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若手・中堅職員を中心に、地域活動への参加促進に取り組んできたことにより、職員が地域活動の重要性を認識し、実践したことで、「地域活動に参加している職員の割合」が大幅に増加した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員の若年化が進む中で、若手職員や中堅職員の意識改革を含めた成長支援が急務である。知識・経験の伝承、職場内でのフォローアップ、または地域活動への参加など、高浜市の未来を担う職員への更なる支援が必要である。</li> </ul>		
特記事項	◎同じ施策内(目標内)で、「こんなことに取り組みます！」の統合が必要など、後期基本計画の素案づくりに向けて、特筆すべき点について記載する。		

### Ⅲ. 今後の取り組みの方向性

#### 1. 今後予想される社会変化や動向、新たな課題

◎国内外の社会経済環境の変化や、国・県の動向といった大局的な観点から見た新たな課題について、記載する。

- ・ 今後5年間で、現任の部長職が全員退職するなど、さらに職員の若年化が進む。
- ・ 国において働き方改革に関する議論が進行する中、今後、時間外勤務の削減等、公務員の労働にも大きな変化が生じてくる。

#### 2. 今後、特に力を入れる取り組み（優先度の高いもの3つ）

◎中期基本計画の目標達成状況、取り組みから見てきた課題、市民が考える課題等全体を踏まえ、今後特に力を入れて取り組むことを「3点」に絞って記載する。

##### (1) 情報発信の積極的展開

- ・ あらゆる手段での情報提供の積極的展開の必要性が感じられる。広報紙面の効率的な活用や各グループのホームページの充実、フェイスブックの活用度を高めるなど、今ある媒体の有効的な活用方法を見出していくことはもちろん、新たな媒体の発掘や情報発信そのもののあり方を考えるなど、抜本的な改革を行っていく。

##### (2) 若い世代の地域デビューのきっかけづくり

- ・ 「地域活動に参加したことがある」10～30歳代の若い世代の割合は、平均と比べて低くなっている。若いうちからまちに愛着や誇りを持ち、まちのために行動できる市民を増やすため、しあわせづくり計画の実践と連動しながら、若い世代が地域活動に参加しやすくなる仕組みを市民と一緒に考え、構築していく。

##### (3) 「若手・中堅職員」の成長支援と「仕事」の効率化により職員力を高める

- ・ 「若手・中堅職員による職員のための職員研修」をはじめとした研修をとおして、入庁後から地域活動を自分ごととして考える機会を設け、“きっかけづくり”から“課題発見・解決”まで各階層に応じた内容を企画・検討していく。
- ・ 時間外勤務の多い部署については業務を抜本的に見直すほか、職員一人ひとりが「仕事」の見直し、効率化を図るとともに、職場全体で職員のワークライフバランスを考えた「働き方」に改革していく。

### Ⅳ. 施策(目標)構成の検証

◎施策(目標)構成について、現状のままでよいか、あるいは、他の施策(目標)との統合・分割といった見直しが必要かどうかを検証し、検証内容を記載する。

- ・ 住民自治、地域協働に関する当該目標については、市民と行政が一緒になってまちづくりを進めていく上では基本的な事項であり、必要不可欠であると考え。よって、後期においても現状のまま目標として設定する。